

# 日本は、殺人天国・墮胎天国・人買天国

それは真の宗教が皆無だったからです

私(聖四門・新村紘宇二)は日本人として生まれ育ち、71年の歳月を迎えようとしております。この日本は故郷であるので、不名誉な恥晒しは御免蒙りたいのです。

所が、現代日本は、世界中から名指しで非難されている『三大天国』があるのです。

醜悪な『役人天国』はさておき、

その第一は『殺人天国』、その第二は『墮胎天国』、その第三は『人買天国』です。

●『殺人天国』のいわれは、毎年十三万強の死因不明の変死体があるにも拘わらず、死因究明の病理解剖等は、先進国では超最低の4%弱、残りの96%強の遺体については解剖等による究明所見がなされぬまま放置されているのです。

理由は監察医が少ない、予算がない、との事で、結果、毎年多くの殺人事件が闇に葬られているのです。

日本の治安は世界最高水準とする『大嘘』に人々は騙され続けているのです。

●『墮胎天国』のいわれは、余りにもご周知の通りで、世界最大の『墮胎市場』なのです。

日本にさえくれば、いとも簡単に『墮胎』できるのです。

キリスト圏、とりわけカトリック系では『墮胎』は「禁断の木の実」で絶対に手にしてはならないのです。

つまり『墮胎手術』をしてくれる医者がないのです。

日本では「医は仁術」でなく「医は算術」なので、

『墮胎手術』は医者稼ぎなのです。

●『人買天国』のいわれは、外国人子女の

『人身売買』による日本への大挙売春渡来です。

特に東南アジア系の子女達は現地の女衞／ぜげん(人買ブローカー)によって、日本の人買／亡八・ぼうはちに売り渡されるのです。

何と日本では『人身売買』を罰する法律が、2005年までなかったのです。

この余りにもむごたらしい『人身売買』の実態に、アメリカ国務省は日本を先進国唯一の「監視対象国」にさえしている始末で、それは未だに解けてはいません。

日本の津々浦々の夜の巷で働いているアジア系子女の大半は、強制売春をさせられているのです。

最低賃金はおろか、売春で得たお金も半分はいい方で、8割方なんだかんだと因縁をつけられて取られてしまい、残り2割方を国元に仕送りをしている惨状なのです。

何故、日本は、こんなにも非道な『下種な国』に成り下がってしまったのでしょうか。

それは、一重にも二重にも日本には真の宗教が『皆無』だったからです。

上記●の『三大天国』(殺人天国・墮胎天国・人買天国)は、

全て日本特有の『役人天国』に依拠しているのです。

日本にある『寺』の殆どは『外護／げご』による『寺領』によって贅沢三昧してきたので、宗教としての自律性が『皆無』なのです。

その体質は、権力への依存・麻痺・中毒で、現代風に言えば、役人／予算との癒着／免税です。

日本に真の宗教が『皆無』だからこそ『悪魔の聖書』『死の商人』が跳梁跋扈するのです。

真の宗教は、二百%『弱者』の味方であり、真の政治も百%『弱者』の味方の筈なのですが？。